

# 韓国視察報告書

出張期間 2001年5月2日(水)~5日(土) 3泊4日  
参加者 財団法人 ハイパーネットワーク社会研究所  
公文俊平、会津泉、笹岡政彦、青木栄二、福田保  
報告者 笹岡政彦、青木栄二、福田保

今回、ハイパー研一行は、株式会社ジェイワイエヌ(JYN)社長の永井氏、通訳の Miss Eunju Lee と3泊4日の行程で韓国の現状を視察すべく、ソウルを中心に政府関係機関、IT系企業、研究所などを訪問した。

永井氏は、以前リクルートに在籍された方であり、現在は自身で会社を経営されている。昨年より韓国のコンピュータ系企業とのビジネスを進められているとのことで、今回の韓国訪問でベンチャー系企業とのコーディネートをしていただいた。

また、Miss Eunju Lee は大学院に通う、日本語、英語を操る才女であり、今回は通訳として視察のサポートをしていただいた。

非常に刺激的な時間を過ごすことができたが、その訪問先からヒアリングした内容を以下にまとめたので簡単に報告する。

## 5月2日 15:15-17:00 釜山発展研究院

(出席者)釜山発展研究院) Senior Research Fellow Mr. Park (朴先任研究委員)  
Research Fellow Mr. Kang (姜副研究委員)  
Research Fellow Mr. Koh (高専門委員)

ハイパー研)青木、福田

1993年に設立された釜山発展研究院を訪問し、ハイパー研との共同研究をメインに話をした。

今年初めに Mr. Park が大分県を視察のため訪問した際、ハイパー研にも立ち寄りされたことが縁で、釜山発展研究院へ訪問の機会を得た。

### 【ハイパー研と釜山発展研究院との共同研究について】

- ・ 日韓ワールドカップをにらんで何かできないか、と検討している。
- ・ 釜山発展研究院としては、(半々でも)費用を負担して派遣することは難しい。
- ・ ただ、ターゲットにしている Mr. Koh は、(留学経験がないこともあるが)共同研究でハイパー研に駐在することを希望している。
- ・ Mr. Koh は地域情報化の分野では韓国内で名が知れており、現状は英語しか喋れないが、日本語も2~3ヶ月あれば大丈夫と考えている。
- ・ 実際には、Mr. Koh が今持っているプロジェクトから離れなければならず、月に家賃込みで15万ほどかかる生活費をどうするか、などの課題がある(外務省や大分県関係の予算はないだろうか)。
- ・ 現実的には、別のディメンジョンで共通のテーマをこなすのが良いのではと考えられる。

#### 【韓国の情報化の進み方について】

- ・ 韓国では以前は日本式の情報化施策をとっていたが、1993年からのアメリカの成功を受けて、1996年からアメリカ式を導入し、韓国の情報化が急速に発展した（韓国電子通信研究院が上記方式をとっている）。
- ・ このため、韓国内ではアメリカ式の情報化施策論者が強い。
- ・ ただ、日本はシステムづくりに時間がかかるものの、動き出せば早いのではないか。
- ・ （参考資料を引き合いに）アメリカと日本の例を比較しても、GDPの動きと情報化の投資額はリンクしていると考える。

#### 【大分との関係について】

- ・ 今年初めに大分訪問のきっかけは、韓国政府が作成したレポートに「大分県が進んでいる」と記載されていたため。
- ・ そのレポートには、豊の国や一村一品や豊の国情報ネットワークが載っていた。

#### 5月2日 16:30-17:30 NTT KOREA

（出席者）NTT KOREA）小林社長  
ハイパー研）公文、会津、笹岡  
JYN）永井氏  
通訳）Miss Eunju Lee

#### 【選挙活動でのインターネットの利用方法について】

- ・ 選挙活動での利用形態が爆発的に進んでいる。
- ・ 具体的には、誹謗中傷の書き込みによる対立候補の落選運動などもある。
- ・ また、ホームページ上に公約の公開もおこなわれている。

#### 【韓国の携帯電話の方式について】

- ・ モバイルの方式は5社全てがCDMA方式を採用している。
- ・ 将来的には3社（SK, KT, LG）への統合が予定されている。

#### 5月3日 9:00-10:30 I-ON Communications Corp

（出席者）I-ON Communications Corp）President Mr. Oh, J、Manager Mr. Yang, Jae Hyuk  
ハイパー研）公文、会津、笹岡、青木、福田  
JYN）永井氏  
通訳）Miss Eunju Lee

I-ONがメインビジネスとしているのは、HPの更新・管理を対話形式でおこなうことができるコンテンツマネジメントシステムの販売である。製品名はI - Publisherという。

#### 【I - Publisherの特色について】

- ・ 今まで新聞社などでHPの更新をおこなう場合、編集者がテキストや映像のデータをWebエンジニアに渡し、Webエンジニアがデザインとプログラムの両方を更新する必要があったが、これを簡易な操作で編集者自らが更新することを可能としている。
- ・ 製品リリースの背景にはWebエンジニアはコストが高いため、その部分をオートメーション化するシステムとして販売している。

- ・ 売上は昨年 1 年間で 3.3 百万ドル。
- ・ システムは Oracle + Sun で稼動し、一式 3000 万円。
- ・ DB が乗ればマシンは問わず、1 ヶ月のカスタマイズで、提供可能。
- ・ 韓国では引き合いも増えているものの、なかなか日本での売り込みは進んでいない。
- ・ 日本では「ファミ通」のサイトでこのシステムを採用している。

実際に操作してもらったが、目の前で HP の文章や映像の更新からリンク先の変更までおこない、用意されたテンプレートが次々と更新されていった。Mr. Oh は「これらは既に存在する技術ばかりだが、まとめた製品がなかったので当社が製品化した」とコメントしていた。

なお、このソフトは 2001 年 4 月 9 日号の日経コンピュータでも、韓国特集の中で紹介されている。

### 5 月 3 日 11:00-12:00 Internet Buy Together

(出席者) Internet Buy Together ) Executive Director Mr. K. Y Ko、他 1 名

ハイパー研) 公文、会津、笹岡、青木、福田

JYN) 永井氏

通訳) Miss Eunju Lee

インターネット上で展開されている商品販売には大きく分けてモール、オークション、共同購入の 3 つの形態がある。また共同購入には、ホールセラー、商品値段を提示したスライディング、消費者が集まって入札、の 3 つのパターンがある。このうち共同購入の分野において、韓国の 10 社の中、Internet Buy Together はシェア No.1 (売上は 10 億ウォン以上 / 1 ヶ月) を確保している従業員数は 32 人の会社である。

#### 【Internet Buy Together の考えるインターネット上での共同購入の特徴とこれからについて】

- ・ 一般に、Internet 上の共同購入で中小企業が信用を得るのは大変なので、大企業が表に出てきているが、Internet Buy Together は韓国政府が発表している電子商取引ランキングで、大企業に混じって登録されている。
- ・ 実績としては共同購入に BtoB を導入することで、例えば IC の購入で金額が 20% 下がった。
- ・ もちろん、全てがオンラインでおこなわれるのではなく、BtoB の場合、デリバリとアフターサービスはオフラインでおこなわれている。
- ・ 現在取り扱っている商品はパソコンや家電、書籍が多い。
- ・ 取引は、信用で商品を押さえて、客から金を直接もらい、宅配するスタイルを取っている。
- ・ 政府の消耗品もこの方式で納入が可能となり、現在は企業中心の利用だが、規模の変更で家庭での利用も可能と考えている。
- ・ 今は電子商取引の商品や形態の幅が広がっているので、市場としては下がらないと思うし、マージンはサービスで取っていく。
- ・ 生い立ちとして、IMF 時に消費者が萎縮したものの、この時にオンラインオークションがヒットしたこともあり、元々ソフト開発をしていた会社であったが、サイドビジネスとして始めたつものの電子商取引があたり、今日に至っている。
- ・ 別のビジネスとして、韓国でも携帯に画像を取り込んだりする動きあり (ただし静止画) 現在、携帯の中に画像を取り込むコンテンツ (プリクラの電子版) の作成を手がけ始めた。

## 5月3日 14:30-15:00 外交通商部

(出席者) Ministry of Foreign Affairs and Trade ) Foreign Minister Dr, Han Seung-So (韓昇洙)  
Director Mr. Jong-moon Choi (崔鍾文)

ハイパー研) 公文、会津、笹岡、青木、福田

JYN) 永井氏

通訳) Miss Eunju Lee

セキュリティチェックを受け、外交通商部の秘書室に通された後、韓昇洙長官とお会いすることができた。ちなみにお会いした部屋は先日、韓昇洙長官と駐韓国大使との会談の場として、テレビに映っていた場所であり、右の写真の中央が韓昇洙長官である。

韓昇洙長官は公文が東大教授をされていたとき、客員教授として招請されたことが縁で今回の席があり、そこに我々が同席し、次のような話をいただいた。

- ・ IT なしに国の発展はない。
- ・ 息子もアメリカの大学を卒業したが、韓国の IT 系ベンチャーに就職している。
- ・ 金大中大統領は側近のアドバイザを置いていないが、ソフトバンクの孫正義氏からはアドバイスをもらっている。



この外交通商部の門のところで、参加者の記念撮影を行った。左にその写真を示す。

(左から、青木、笹岡、公文、会津、永井、福田、敬称略)

## 5月3日 17:00-18:00 SERI(SAMSUNG ECONOMIC RESEARCH INSTITUTE)

(出席者) SERI ) Chief Researcher Mr. Kevin Shin

ハイパー研) 公文、会津、笹岡、青木、福田

JYN) 永井氏

通訳) Miss Eunju Lee

Mr. Kevin は韓国のテレビやラジオでもコメンテータとして引っ張りだこの方だが、彼から韓国経済について、最近の経験を元に IMF とベンチャーをキーワードに話を聞いた。

### 【IMF ショック後から、ベンチャブーム崩壊について】

- ・ IMF 前、韓国は終身雇用だったが、IMF 後はこれが壊れ、会社のリストラがおこなわれた。
- ・ 1997 年 11 月から 1999 年夏ぐらいがベンチャブームであり、それ以前は「会社に捨てられる」だったが、それ以降は「会社を捨てる」に代わった。
- ・ ベンチャブーム（いわゆるバブル）のとき、市中の金がベンチャに流れ始めた（これをヘリコプタマネーという）が、金はあるが有効に使う人がいない状況になった。
- ・ ソウル大や KAIST 出身の人たちが簡単な企画書で 10 億ウォンを手に入れることができたが、それは「まずい」という風潮より、それに若者があこがれ、群がって行った。
- ・ このピークは 2000 年 3、4 月で、5 月にはバブルがはじけた。
- ・ 今は全体の 5% しか生き残れないと予想されている。
- ・ 政府は 20,000 のベンチャ企業を作ると公約していたが、数を作れば良いという政府の方針は間違っていたのではないかと考えている。
- ・ ただ、よい面としては、インフラが整備されたことでインターネットが自由に使えるようになったり、小学生が 1 人 1 個以上の e-mail アドレスを持つことになったりしたことが挙げられる。
- ・ 今は、インターネット事業がベンチャ企業を正常に戻してくれることであろうと考えている。

### 5 月 4 日 09:00-10:30 MPEON(Mobile Pioneer, the Essential On the Net)SAMSUNG

(出席者) Mobile Pioneer, the Essential On the Net)

Senior VicePresident & COO Mr. Seong Eun Kim

Executive Director Mr. Won Chul Chang

Chief Senior Consultant Mr. Frank Seo

Project Consultant Mr. Hyung Joon Chun

Ms. Kayoung Park Ms. Seong-Ja Lee、他 3 名

ハイパー研) 公文、会津、笹岡、青木、福田

JYN) 永井氏

通訳) Miss Eunju Lee

外資系企業が並ぶテヘランストリートに面したビルにある MPEON は、サムソン電子のモバイル部門の担当する会社として、モバイルインターネット関連を中心に、全世界を対象としたマーケティング活動をおこなっていくために、昨年 11 月に設立された。

#### 【サムソン電子の携帯戦略と今後のビジネス】

- ・ サムソン電子は、CDMA 方式では日本に参入してはいない（日本独自のため）ものの、新通信方式導入後は進出を予定している。
- ・ また、MPEON としては、3G はユーザーニーズで対応すべきで、テクニカルな面から引っ張るべきではない、と考えており、現在 2.5G でやっているが、(NTT ドコモが始めようとしている) 3G には懐疑的と考えている。
- ・ MPEON はプロバイダやコンテンツに魅力を感じており、キラーアプリケーションとして VOD、MOD(Multimedia On Demand)、ロケーションサービスを考えている。
- ・ 今後は、ISP とネットワークオペレータの間をつなぐ独立したビジネスを目指している。

また、会議の時間の多くは MPEON から出される、NTT ドコモの戦略や今後のモバイル関連技術の方向の質問に対する質疑応答に充てられ、吸収しようとする意欲を強く感じた。

#### 5月4日 11:00-13:00 enforever

(出席者) enforever) CEO Mr. Edward S. Yoon、 Director Mr. David Kim

ハイパー研) 公文、会津、笹岡、青木、福田

JYN) 永井氏

通訳) Miss Eunju Lee

韓国のオンラインゲームのシェアでは3位グループに属する enforever(社員数27名)から話を聞くことができた。ちなみに、オンラインゲームでシェア1位の NC Soft の売上は年550億ウォン、2位の Nexon の売上は年350億ウォン、3位グループトータルの売上は年250億ウォン。

今回、会議をおこなったホテルのビジネスセンター(ここにはインターネットにつながる LAN のポートが備え付けられている)で、オンラインゲームの実演をしてもらいながら話をうかがった。右の写真が、プロジェクトによる実演内容である。これは後で述べるエバーランドという同社の代表的オンラインゲームである。



#### 【韓国オンラインゲームの特徴について】

- ・ オンラインゲームは韓国の誇るものである。
- ・ 従来のアメリカ発のオンラインゲームはサーバを用いずにプレイヤーの参加人数は8人がMaxであったが、韓国のオンラインゲームは1サーバで4~5千人がプレイ可能であり、enforeverは既に100万人のユーザを持っている。
- ・ enforeverには80台のサーバ、200Mのバックボーンがある。

#### 【enforeverのオンラインゲーム everlandの特徴について】

- ・ 10~20代前半をターゲットにしている。
- ・ ゲームの内容はサーバ上に構築された仮想空間に自分の分身となるキャラクタを存在させ、キャラクタを育てたり、ゲームをしたり、同一仮想空間にいるほかの参加者とチャットで会話をしたりして楽しむものである。
- ・ また、キャラクタを通して、参加者のパーソナルインフォメーションを見ることができ、このバーチャル空間での付き合いから、リアルな付き合いにつながることもある。
- ・ 料金は、ダイヤルアップユーザのプレフィーは小学生が1ヶ月7,700ウォン、一般が9,900ウォンであり、PC房でプレイする場合、PC房はPC1台(1IPアドレス)に対して、1ヶ月70,000ウォンを支払う。

#### 5月4日 14:30-16:30 MIC (Ministry of Information and Communication Republic of Korea)

(出席者) MIC) Director Mr. Chul-Jeung Hwang、

Deputy Director Mr. Kang, Jang Jean

ハイパー研) 公文、会津、笹岡、青木、福田

JYN) 永井氏

通訳) Miss Eunju Lee

MIC (情報通信部: 日本の郵政省) のインターネット担当局長から、「何故韓国がここ 3 年で急速に伸びたのか」を中心に話を伺った。

【韓国情報化戦略について】

- ・ MIC としては、最初は自発的に発展するのが良いと思っていたが、韓国の情報インフラは政府が設置した。
- ・ 1995 年から 2005 年の計画で、全国 144 箇所へ光ファイバをひく超高速インフラを敷設中であり、2001 年末で第 2 段完了している。
- ・ 2002 年から 2005 年の第 3 段はこれからとなっている。
- ・ やはり、地方や田舎の情報化・高速化をどうするかが重要な問題としてあり、地方自治体や郵便局までの敷設を考えている。
- ・ その一環として、2003 年までに 3000 万人が IT 教育をおこなう予定で、既に 2/3 が終了している。
- ・ また、MIC が政策を決めるときは民間からヒアリングをおこなっている。
- ・ 現時点 (2001 年 5 月) での韓国のプロバイダの数は 90 で、インターネット利用家庭数は 500 万世帯。

5 月 4 日 17:30-18:30 SBSi

(出席者) SBSi) Producer Mr. Bae

ハイパー研) 公文、会津、笹岡、青木、福田

JYN) 永井氏

通訳) Miss Eunju Lee

SBSi は従業員数 80 人の HP を通して情報発信をする会社であり、SBS のインターネット部門と位置付けられている。なお、SBS は 11 年前に設立された韓国を代表するテレビ局であり、日本テレビとも提携している。

今回話を伺った Mr. Bae は山口大学に留学経験をもち、日本語を話せる 20 代の CEO である。

【SBSi の事業内容について】

- ・ SBSi はマネジメントのみを担当し、コンテンツはアライアンスで入手しており、SBS で流した映像は SBSi でも流せる。
- ・ これは著作権法がそれほど厳しくないためもあり、契約は SBS とおこなうのみで実現可能となる。
- ・ TV 放送は 95% を VOD 化、過去 4 年分を保存しており、SBSi のサイトから見ることができる。
- ・ なお、SBS のサイトは ISIZE みたいなもので、サイト上から医療相談も可能で、ボランティアの医師が対応している。
- ・ 音楽面では、HP 上で韓国音楽を聞くことができ、そのカバー率は 100% (10 数万曲)。
- ・ この音楽リソースを活用し、MyJukeBox という好きな曲を自分で選んで自分のアルバムとして聞けるソフトも HP 上から使用することが可能。

- ・ また、カードもカード会社と提携して発行しており、1枚7,000ウォンが SBSi のインカムで、既に700万枚発行している。
- ・ これとは別に、ゴルフはブッキングや共同購入が可能となる会員を年会費1万ウォンで募集し、こちらの会員数は30万人。
- ・ なお、昨年度の SBSi の売上は手数料収入などで70億ウォンあり、利益率は40%。

なお Mr. Bae とお会いした場所が、ソウル最大のインターネットカフェであり、そこはまるで異次元空間にでも迷い込んだような世界であった。内部撮影は禁じられているため、エントランス部分のみを下の写真に示す。



このインターネットカフェは巨大なショッピングモール内にあり、単なるインターネットアクセスのためだけではなく、人の行きかう交流スポットとなっている。例えば、オンラインゲームのチャンピオンシップのための会場、待ち合わせ場所、デートスポットなどである。

今回の視察では、移動の途中において街のいたるところにあるインターネットカフェ（韓国ではPC房と呼ばれる）を見て回った。その多くはもっと小規模のものであったが、常に利用者がいて、利用率は高いように感じられた。通勤や通学の途中に、あるいはちょっと外出したついでに、気軽にブロードバンドにアクセスできるなんて、とても便利なものだと思う。このように生活の中から、会社の中から、役所の中から広がる、韓国のネット事情に接することができて意義ある視察であった。

最後に

今回のコーディネートをしていただいた永井氏、通訳の Miss Eunju Lee には、最大級の感謝の意を表したい。

- 以 上 -